

雜賀崎地区防災計画



令和7年2月作成
雑賀崎地区防災会

目次

はじめに

1 地区の概要

- (1) 地区の範囲及び人口世帯数 1
- (2) 地震・津波 2
- (3) 風水害 16
- (4) 内水 19
- (5) 土砂災害 20

2 防災活動

- (1) 雑賀崎地区防災会規約 22
- (2) 平常時における防災活動 24
- (3) 中長期的な活動予定 25
- (4) 防災研修会の実施状況 26
- (5) 防災訓練の実施状況 27
- (6) その他の実施状況 29
- (7) 災害時における防災活動 30

3 資料編

- (1) 避難所・避難場所一覧 31
- (2) 自主避難所一覧 31
- (3) 緊急時の連絡先・災害伝言ダイヤル 32
- (4) 避難行動の考え方 33
- (5) 災害時の情報入手先 34
- (6) 雑賀崎地区防災士資格取得数（補助金利用） 35
- (7) 雑賀崎地区防災資機材リスト 35
- (8) 災害「備え」チェックリスト 36
- 大規模災害発生時の安否確認表示について 37

1 地区の概要

(1) 地区の特徴

① 地区の範囲

雑賀崎

② 地区の社会特性

・人口:960人 ・世帯数:516世帯
(令和6年4月1日現在の国勢調査基準人口世帯数)

(2) 地震・津波

① 防災マップ 津波

防災マップ[○]地震・津波編 高松・雑賀・雑賀崎を参照

https://www.city.wakayama.wakayama.jp/_res/projects/default_project/page/001/036/436/menu_1/gyousei/sougobosai/bosaimap/page/jishin/13_jishin_map.pdf

図1 雑賀崎地区防災マップ[○] (津波)

②和歌山市地区津波避難計画

第1節 地域状況の把握

第1 津波浸水想定区域

当該地区の津波浸水想定区域は、和歌山県が公表した、「南海トラフ巨大地震」の津波浸水想定結果による。

その結果、図2に示すとおり、低地のほとんどが浸水する想定となった。

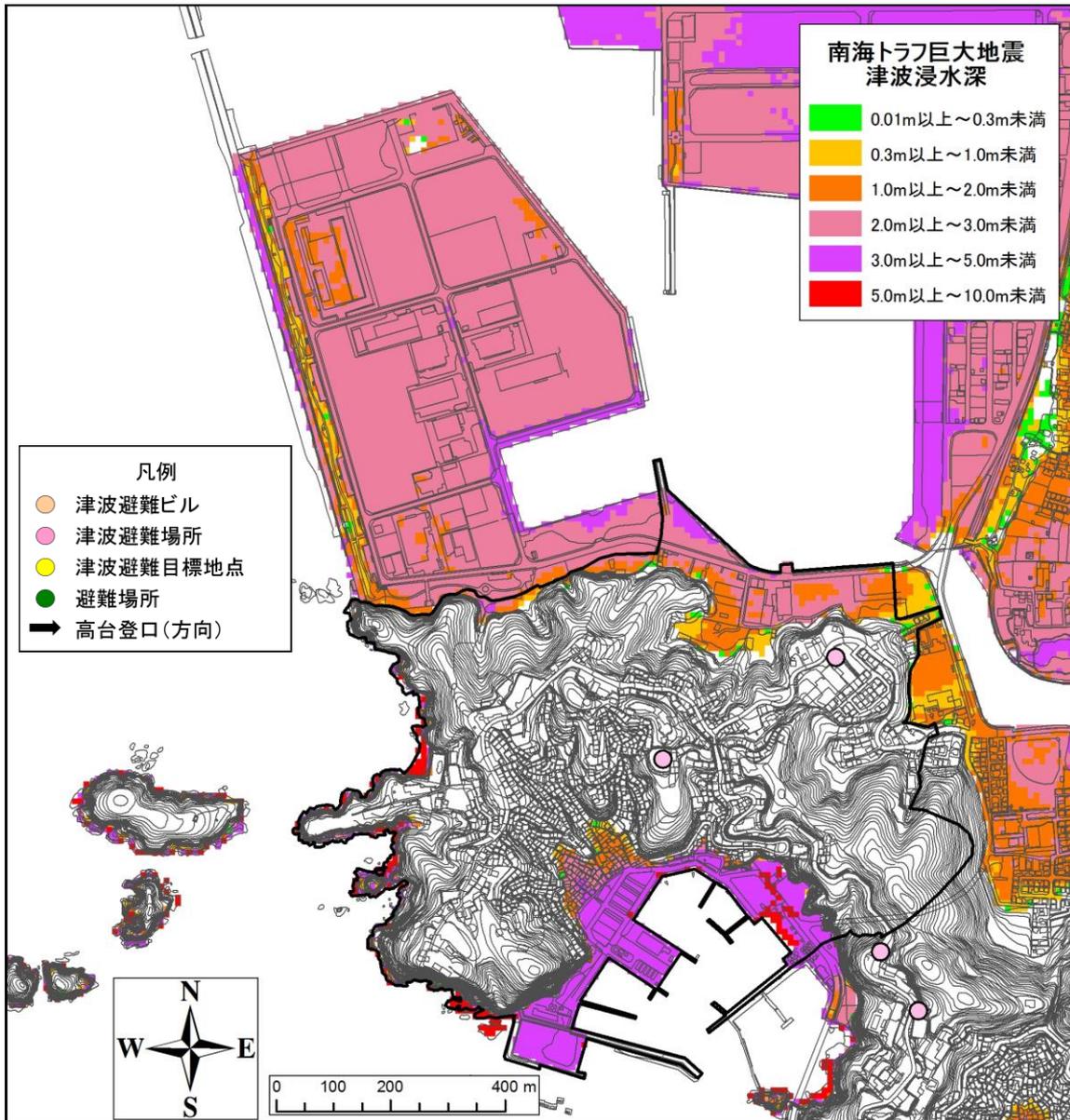


図2 津波浸水想定区域図

第2 避難対象地域

雑賀崎を避難対象地域として設定する。避難対象人口は約960人である。

第3 津波到達時間

地区における津波到達時間は、最短44分で浸水が開始する結果となっている。

第4 被害想定

和歌山県が平成26年に公表した被害想定結果をもとに、当該地区の地震・津波による被害の結果を表1に示す。

表1 被害想定調査結果(冬夕方18時風速8m/秒・早期避難しない)

全壊	死者	重傷者	軽傷者
約480棟	約140人	約29人	約81人

第2節 避難に必要な情報の確認

第1 避難体制の構築

1cmの津波が到達するまでの間に、安全な場所に避難するための検討を行う。

第2 避難開始時間、避難歩行速度の設定

地震発生から5分後に避難を開始し、避難行動要支援者の避難や家屋倒壊、道路閉塞等を考慮し、避難歩行速度は毎分30mを基本とする。

また、可能な限り、より標高が高く、より離れた安全な場所をめざすことが重要であることから、より迅速に避難した場合(避難歩行速度:毎分60m)の検証も行う。

【避難可能時間】

44分(1cm津波到達時間) - 5分 = 39分

【避難可能距離】

- ・幅員3m以上の避難路が整備されている緊急避難場所：
 $39分(避難可能時間) \times 60(秒換算) \times 0.5m/s = 1,170m$
- ・幅員3m以上の避難路が整備されていない緊急避難場所：
 $39分(避難可能時間) \times 60(秒換算) \times 0.35m/s = 819m$
- ・より迅速に避難した場合：
 $39分(避難可能時間) \times 60(秒換算) \times 1.0m/s = 2,340m$

第3 緊急避難場所、避難経路の設定

津波からの避難は、できるだけ安全な場所(避難先安全レベル2以上)に避難することが基本である。しかし、避難する時間がないなどの緊急時のみ、十分な高さが確保されている場所(避難先安全レベル1)に避難することも考える。

周辺の緊急避難場所を表2(P.6)に、避難経路や避難方向を図4(P.6)に示す。

平成25年3月公表の津波浸水想定を踏まえた和歌山県の緊急避難先の安全レベルの考え方にに基づき、どこの緊急避難場所がより安全であるかをわかりやすく表現するため、各避難先に安全レベルを設定している。

安全レベルの説明図を、右ページ図3に示す。

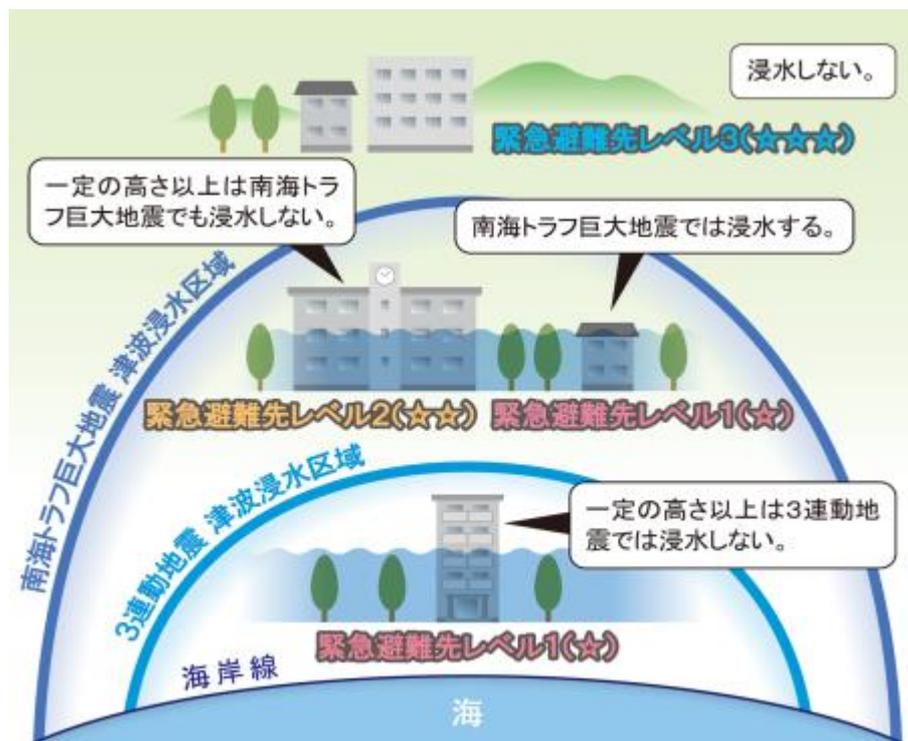


図 3 津波避難先安全レベル説明図

表 2-2 避難先安全レベル 2 以上の緊急避難場所一覧

避難先安全レベル	名称	住所	避難可能場所	収容可能人口(人)
☆☆☆(3)	レモンの丘	雑賀崎 1729	敷地内	-
	創価学会南和歌山文化会館	雑賀崎 6-4	敷地内	-

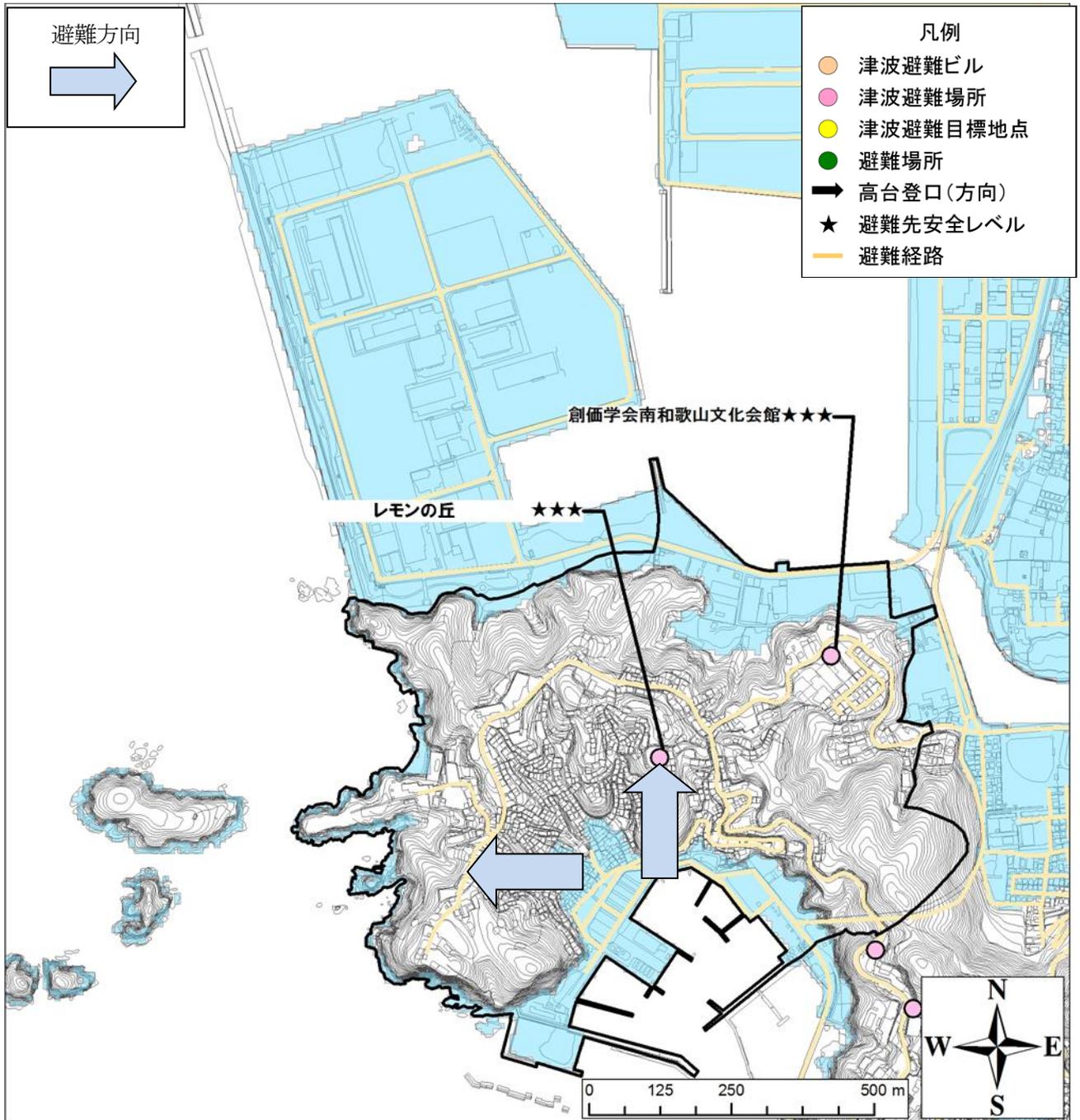


図 4 避難経路図

第3節 迅速な避難の徹底

第1 地震発生から5分後に、毎分30mで避難した場合の避難可能な範囲の検証

緊急避難場所に、地震発生から5分後に、毎分30mで避難した場合に、津波が到達するまでの避難可能範囲を図5に示す。

その結果、地震発生後、すぐ避難した場合、地区全域で避難先安全レベル2以上の緊急避難場所に逃げ切れることが確認された。

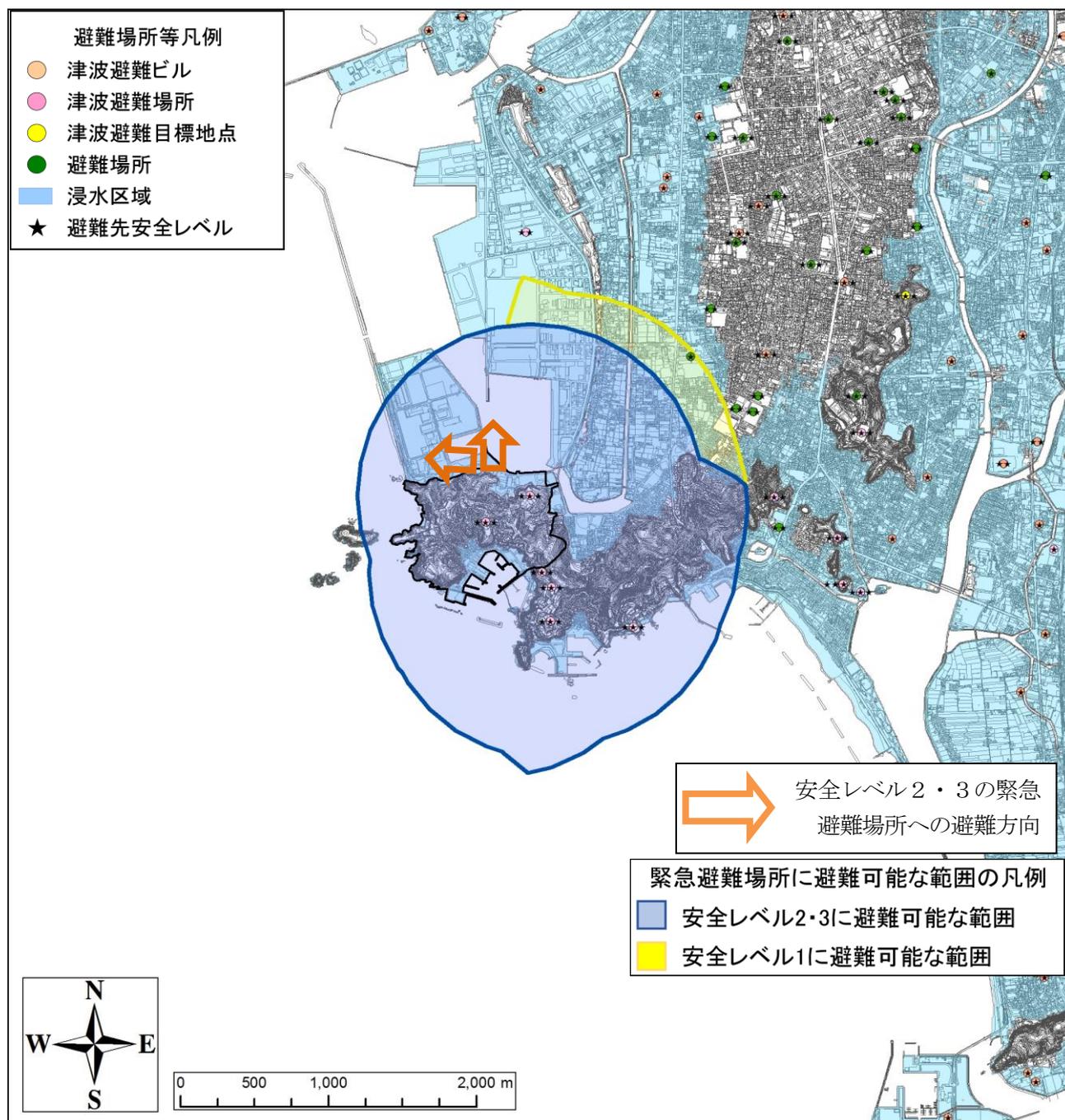


図5 地震発生から5分後に、毎分30mで避難した場合の避難可能範囲

第2 地震発生から5分後に、毎分60mで避難した場合の避難可能な範囲の検証

緊急避難場所に、地震発生から5分後に、より迅速に避難した場合（毎分60m）の津波が到達するまでの避難可能範囲を図6に示す。

その結果、図5(P.7)と比較して、避難可能範囲が拡大し、より安全な緊急避難場所への避難が可能であることが確認できた。

可能な限り、より標高が高く、浸水想定区域からより離れた安全な場所を目指すことが重要である。

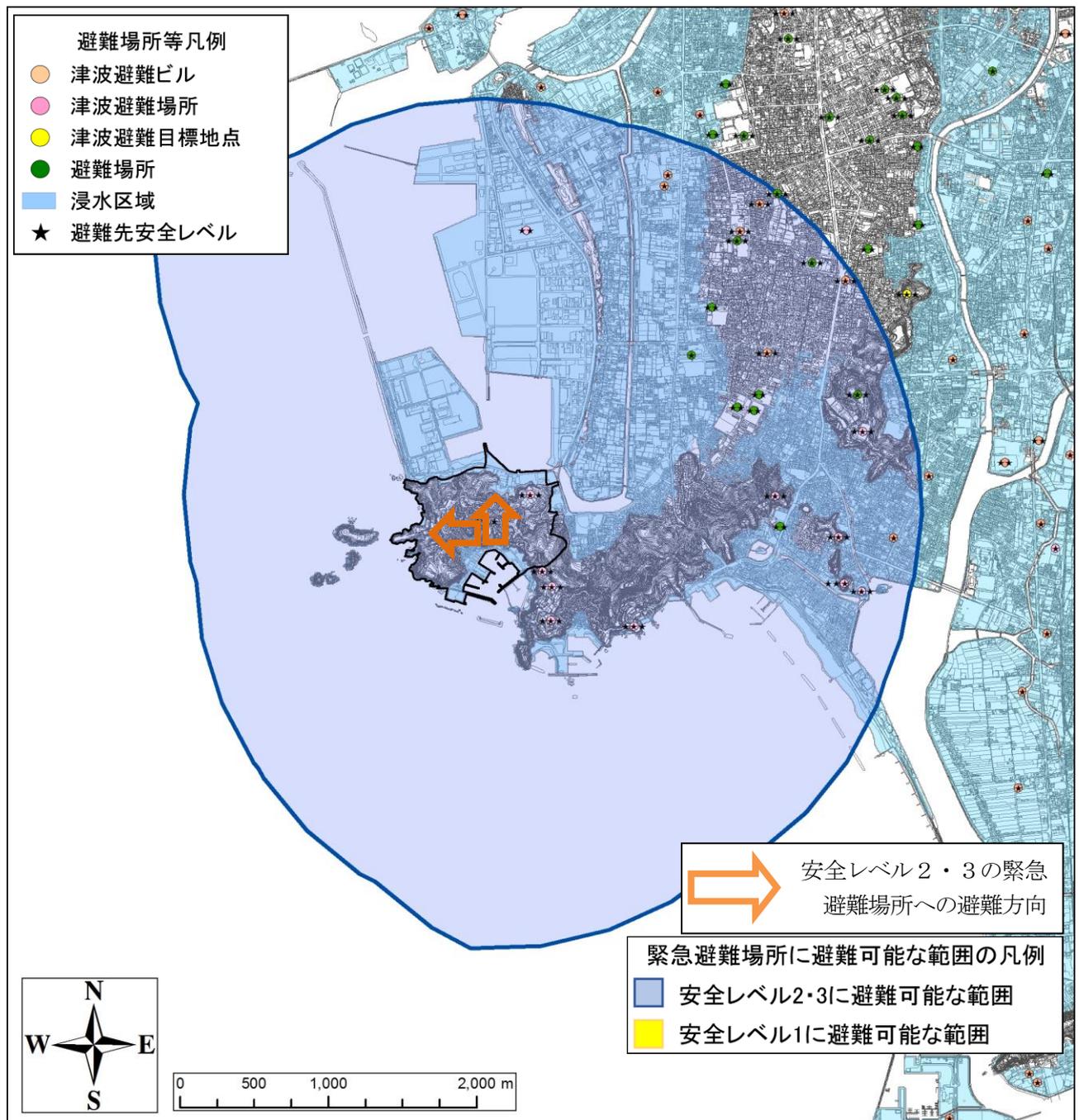


図6 地震発生から5分後に、より迅速に避難した場合（毎分60m）の避難可能範囲

第3 地域の事情を踏まえた避難方法

これまでの検証を踏まえ、地区住民でワークショップを行い、避難経路や避難場所候補の検討を行った。地域の事情を踏まえた詳細な結果は、「検討結果図」に示した。

検討結果図

地域の近隣住民で、避難場所や地区の課題などに関して、ワークショップを実施したことなどを踏まえ、以下の2つのグループにとりまとめた。

これらの地域の実情を踏まえた内容を参考にしながら、避難を行うことが重要である。

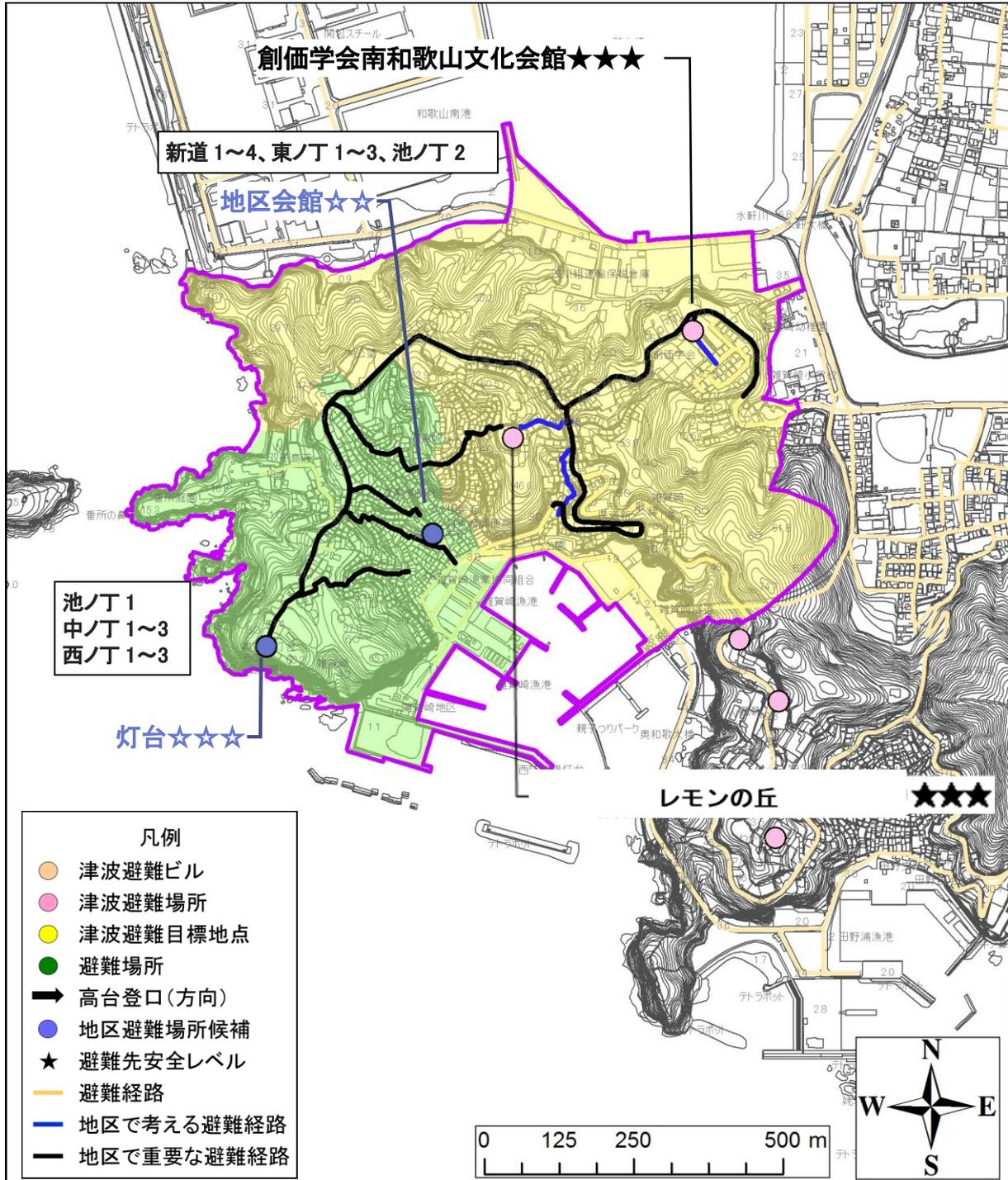


図7 雑賀崎地区グループ分け図

▶ 新道1～4区、東ノ丁1～3区、池ノ丁2区

1. 避難場所に関する情報

自治会名	避難場所に関する情報	避難予定 人数(概算)
新道1区	創価学会南和歌山文化会館 レモンの丘	120人
新道2区		90人
新道3区		80人
新道4区		130人
東ノ丁1区		80人
東ノ丁2区		60人
東ノ丁3区		80人
池ノ丁2区		140人

2. 地区の課題に関する情報（危険箇所など）

- ・レモンの丘までの道が停滞するおそれがある。
- ・落橋のおそれがある。
- ・建物の崩壊により避難路が通行できなくなるおそれがある。

【MEMO】

3. 検討結果図

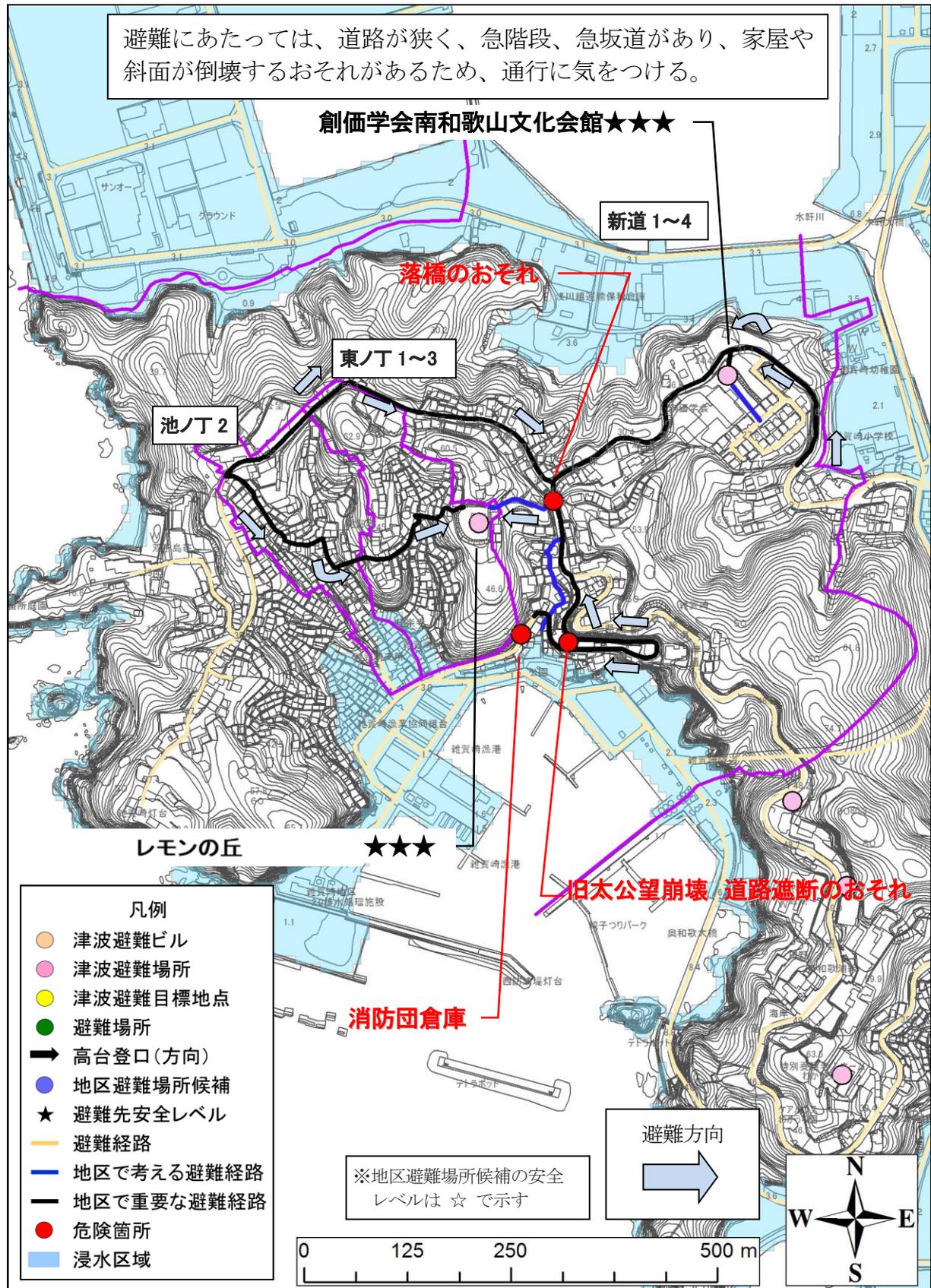


図 8 新道 1~4 区、東ノ丁 1~3 区、池ノ丁 2 区検討結果図

➤ 西ノ丁1～3区、中ノ丁1～3区、池ノ丁1区

1. 避難場所に関する情報

自治会名	避難場所に関する情報	避難予定 人数(概算)
西ノ丁1区	レモンの丘 地区会館 灯台	80人
西ノ丁2区		80人
西ノ丁3区		70人
中ノ丁1区		90人
中ノ丁2区		70人
中ノ丁3区		130人
池ノ丁1区		100人

2. 地区の課題に関する情報（危険箇所など）

- ・道路が狭く、老朽家屋も多い。
- ・漁港近辺に避難場所がない。

【MEMO】

3. 検討結果図

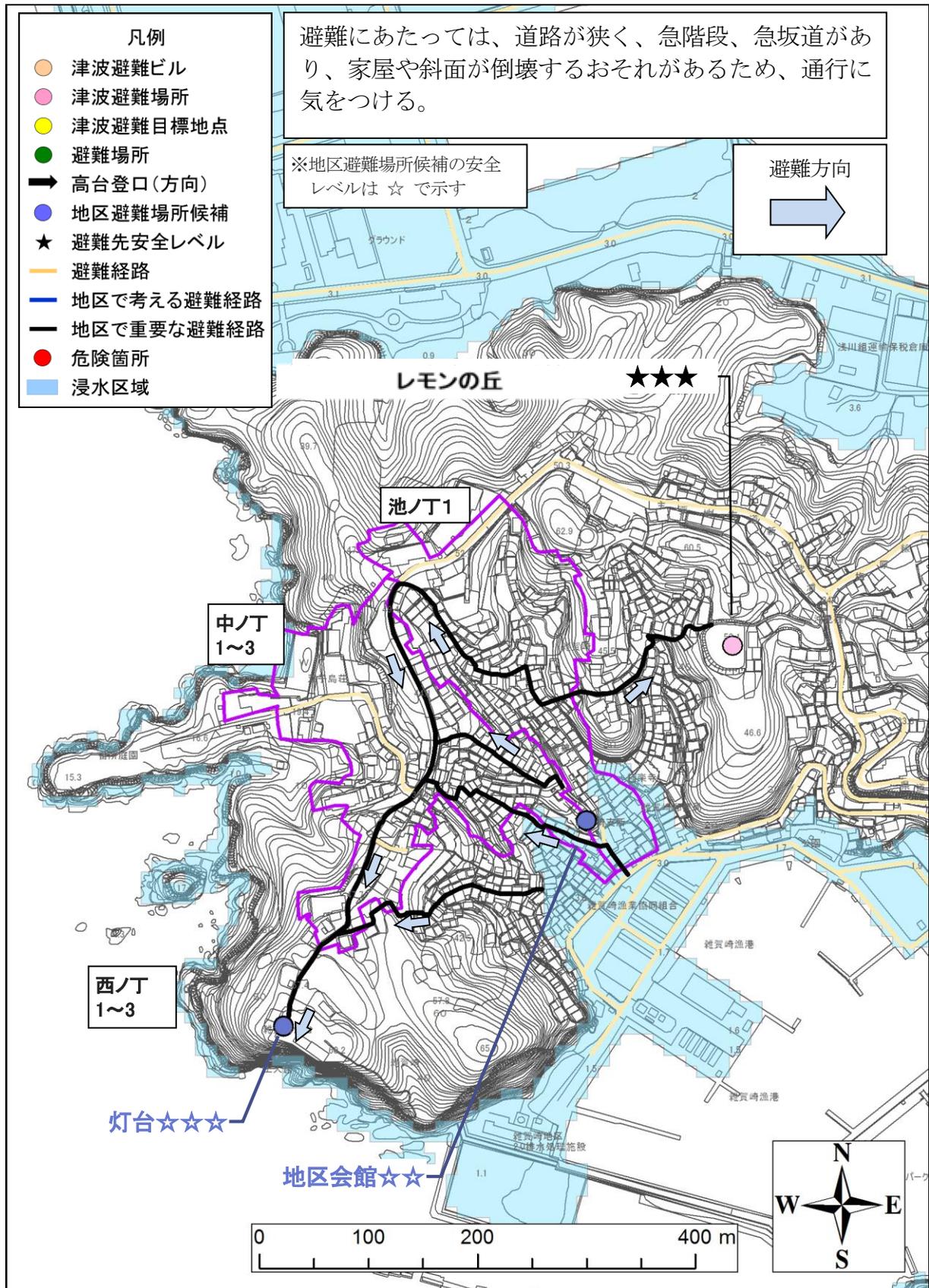


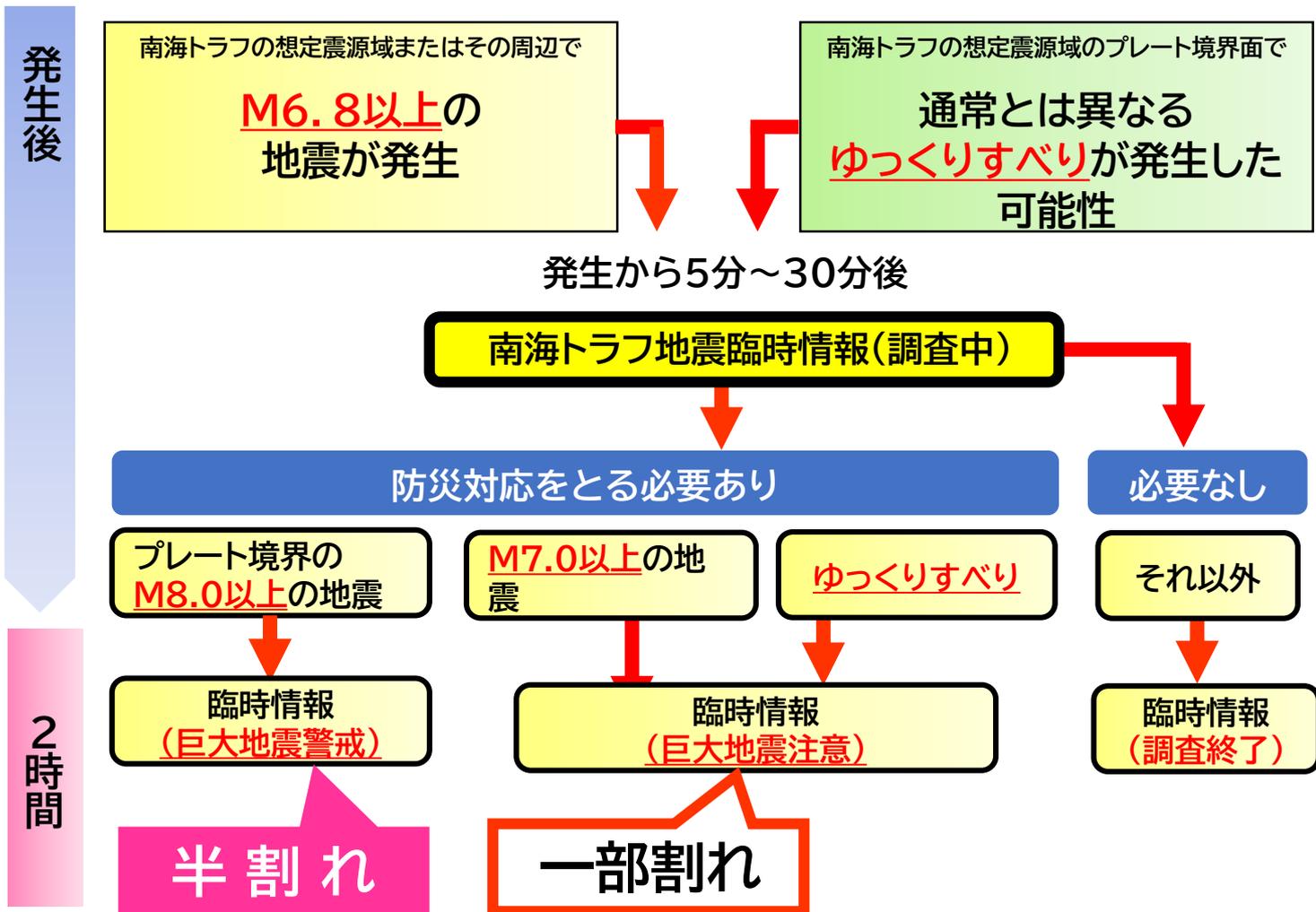
図9 西ノ丁 1~3区、中ノ丁 1~3区、池ノ丁 1区検討結果図

③ 雑賀崎地区タイムライン（地震編）

※震度6弱以上を想定

	経過時間	一般的な出来事	住民	雑賀崎地区防災会
初動対応	発災直後	地震発生 建物倒壊、出火が始まる 停電、断水、ガスが止まる	安全確保	安全確保
	1時間まで	避難所開設 救命救急活動 火災が拡大 二次災害の呼びかけ	一時避難	地区防災本部設置 情報収集 安否確認 要配慮者支援
応急対応	6時間まで	被害の中心地や範囲が判明	安全な場所へ避難する	避難所開設支援
	1日まで	物資の配布 自衛隊が到着	避難所を運営する	避難所運営体制の構築 備蓄の配付
	3日まで	広域火災が鎮火、停電解消 ボランティア支援開始 生き埋めなどの生存低下		在宅避難者の把握
復旧期	2週間まで	行方不明者の搜索完了 仮設住宅の建設 水道やガスの復旧		
復興期	1か月後	罹災証明発行 仮設住宅入居開始		

③ 南海トラフ地震臨時情報フロー図



南海トラフ地震臨時情報が発表されたら！

地震発生からの目安	南海トラフ地震臨時情報		
	巨大地震警戒	巨大地震注意	調査終了
～1週間	<ul style="list-style-type: none"> 日頃からの地震への備えの再確認 事前避難の検討 	<ul style="list-style-type: none"> 日頃からの地震への備えの再確認 	
～2週間	<ul style="list-style-type: none"> 日頃からの地震への備えの再確認 		
2週間～	地震の発生に注意しながら通常的生活を行う		

日頃からの備えのポイント！

- ・防災ハザードマップで災害リスクや避難場所等の確認
- ・家庭における備蓄品(飲料水・食料・日用品等)の確認
- ・地震の揺れへの対策(家具の固定・住宅の耐震化等)
- ・防災情報の収集手段の確認(防災情報メール等)

(3) 風水害

① 防災マップ 風水害編

防災マップ°風水害編 高松・雑賀・雑賀崎を参照

https://www.city.wakayama.wakayama.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/049/769/menu_1/gyousei/sougo_bosai/bosaimap/page/fusuigai/13_fusuigai_map.pdf

図10 雑賀崎地区防災マップ°(風水害)

② 雑賀崎地区タイムライン（水害版）



警戒 レベル	気象庁が発表	行政	住民	雑賀崎地区防災会
5	大雨特別警報 氾濫発生情報	緊急安全確保	命の危険が迫っているため、今いる場所よりも安全な場所へ直ちに避難する	
4	土砂災害警戒情報 氾濫危険情報 高潮警報	避難指示	近くの避難所や自宅の上階へ避難開始	支部や避難所と連携し、必要な支援を行う
3	大雨警報 洪水警報 氾濫警戒情報	高齢者等避難	要配慮者とその支援者は近くの避難所や自宅の安全な場所へ避難開始	
2	大雨注意報 洪水注意報 氾濫注意情報		テレビやラジオ等で気象情報に注意する	インターネット等で情報を収集する
1	早期警戒情報			テレビやラジオ等で気象情報に注意する

③ 大雨時の避難行動

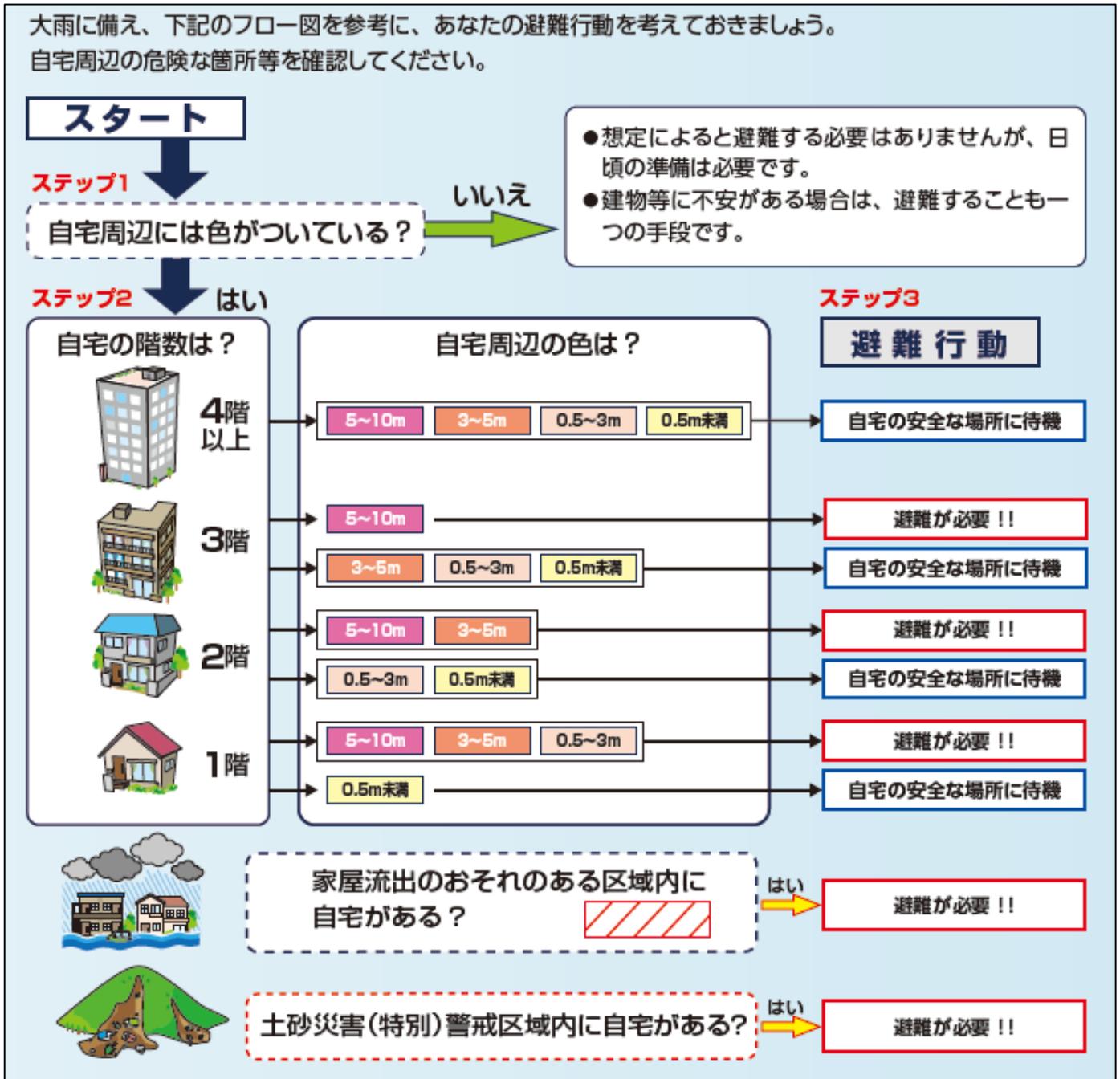


図 1 1 大雨時の避難行動判断フロー図

② 土砂災害に備えた行動

あなたのとるべき行動は！

Actions you should take

你应当采取的行動! 당신이 취해야 할 행동은!

情報収集



警報発令

避難準備



避難開始



土砂災害の種類

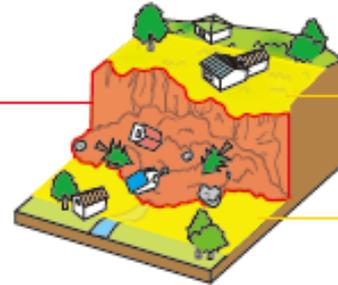


Types of landslide disasters 泥沙災害的种类 토사 재해의 종류

大雨や台風、地震が起きたときには、地盤がゆるみ、がけ崩れや土石流、地すべりといった土砂災害を引き起こす可能性があります。

がけ崩れ(急傾斜地の崩壊)

土砂災害特別警戒区域

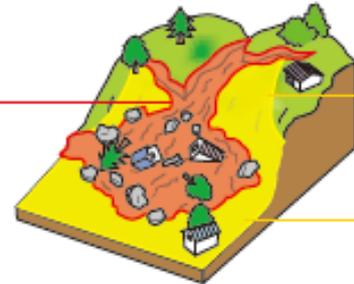


土砂災害警戒区域

地面にしみ込んだ水分により、急な斜面が突然崩れ落ちる現象です。突然起きるため、家の付近で起きると逃げ遅れる人も多く、死者の割合も高くなります。

土石流

土砂災害特別警戒区域

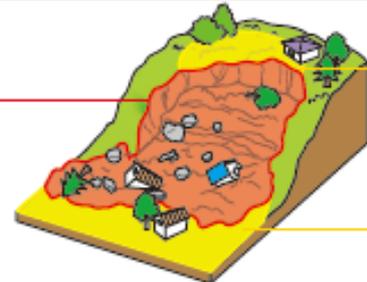


土砂災害警戒区域

長雨や集中豪雨などによって、山や川の石と砂が水と一体となって一気に下流へ押し流される現象です。

地すべり

土砂災害特別警戒区域



土砂災害警戒区域

大雨や長雨等により雨水が地面にしみ込み、水の力によって持ち上げられた地面が広い範囲にわたりゆっくりと動きだすものをいいます。

図14 とるべき行動と土砂災害の種類

2 防災活動

(1) 雑賀崎地区防災会規約

(名称)

第1条 この自主防災組織の名称は、雑賀崎地区防災会(以下「防災会」という。)と称する。

(目的)

第2条 防災会は、災害対策基本法及び和歌山市地域防災計画の規定により、自主的な防災活動を行い、災害(地震その他)による被害の防止及び軽減を図ることを目的とする。

(防災会の構成)

第3条 防災会は、地区で組織されている連合自治会、消防分団、婦人防火クラブ隊及び防火委員会に所属する者をもって構成する。

2 防災会に広報部、防火部、救出・救援部、避難誘導部及び給食・給水部を置く。

(事業)

第4条 防災会は、第2条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 防災に関する地域の普及に関すること。
- (2) 災害発生時における情報収集・伝達、初期消火、救出・救護、応急手当及び避難誘導に関すること。
- (3) 防災訓練の実施に関すること。
- (4) 防災資機材の備蓄に関すること。

(役員)

第5条 防災会は、次の役員を置く。

会長	1名
副会長	3名
部長	若干名

(役員任期)

第6条 役員任期は、定例総会から次期定期総会までとする。ただし、再任を妨げない。

(役員任務)

第7条 会長は、防災会を代表し、災害発生時には、応急対策の指揮をとる。

- 2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき又は会長が欠けたときはその任務を行う。
- 3 部長は、担当部の任務遂行及び処理を行う。

(会 議)

第8条 防災会の会議は、定例総会、臨時総会及び役員会とする。

2 定例総会は、年1回雑賀崎地区の定例総会に併せて開催する。

3 臨時総会は、役員会又は会長が必要と認めるとき召集する。

4 役員会は、構成員2分の1以上が出席(委任状を含む)しなければ開くことはできない。

5 会長は会議の長となり、議事を進行する。

6 会議の議事は、出席者の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(防災計画)

第9条 防災会は、災害による被害の防止及び軽減を図るため、防災計画を作成する。

2 防災計画は次の事項について定める。

(1) 防災組織の編成及び任務分担に関すること。

(2) 防災知識の普及に関すること。

(3) 防災訓練の実施に関すること。

(4) 災害発生時における情報収集・伝達、出火防止、初期消火、救出・救護、避難誘導及び炊き出しに関すること。

(5) その他必要とする事項

(雑 則)

第10条 この規約に定められてない事項で、防災会の運営に必要な事項は会長が役員会に諮り定める。

附 則

この規約は、平成26年 4月1日から実施する。

(2) 平常時における防災活動

項目	具体的内容	実施時期
防災訓練	1 HUG(避難所運営ゲーム)を実施して避難所運営について理解を深める。 2 現地現物を利用した避難所レイアウト訓練を実施する。 3 避難所受付訓練などを実施する。	
防災講座	和歌山市職員出前講座で「和歌山市の災害と防災対策」及び「マイタイムラインを作ろう～風水害に備えて～」を受講する。	
災害への備え	<ul style="list-style-type: none"> ・行政と連携し、住宅の耐震化・家具の固定や配置の重要性を周知するとともに、個人宅での備蓄を推奨する。 ・避難先や避難経路について家族と話し合う重要性を周知する。 	
安全点検	<ul style="list-style-type: none"> ・地区内の危険個所を確認するために、まち歩きを実施する。 ・防災資機材の定期点検を行う。 	
要配慮者支援体制の整備	地区居住者と要配慮者が顔の見える関係を形成し、災害発生時に迅速に避難できるように、必要に応じて防災訓練の内容を考える。	

(3) 中長期的な活動予定

課 題	内 容	達成目標・ 時期
担い手の育成	和歌山県主催の防災士育成研修(紀の国防災人づくり塾)へ参加する。	
災害時協力 井戸の普及	災害時に水道が機能しなくなった場合に備え、生活用水を確保するために、協力井戸の周知・登録を呼びかける。	
マイタイムラインの普及	風水害時の避難に備えマイタイムラインの作成支援を行う。 ※マイタイムラインとは、避難に備え「いつ」、「何をするのか」を時系列に沿って決めておく防災行動計画のことです。	
地区内各種団体との協力・ 連携	消防団や連絡所と災害時の役割を決めておく。	

(4) 防災研修会の実施状況

項目	具体的内容	実施時期
防災研修会		

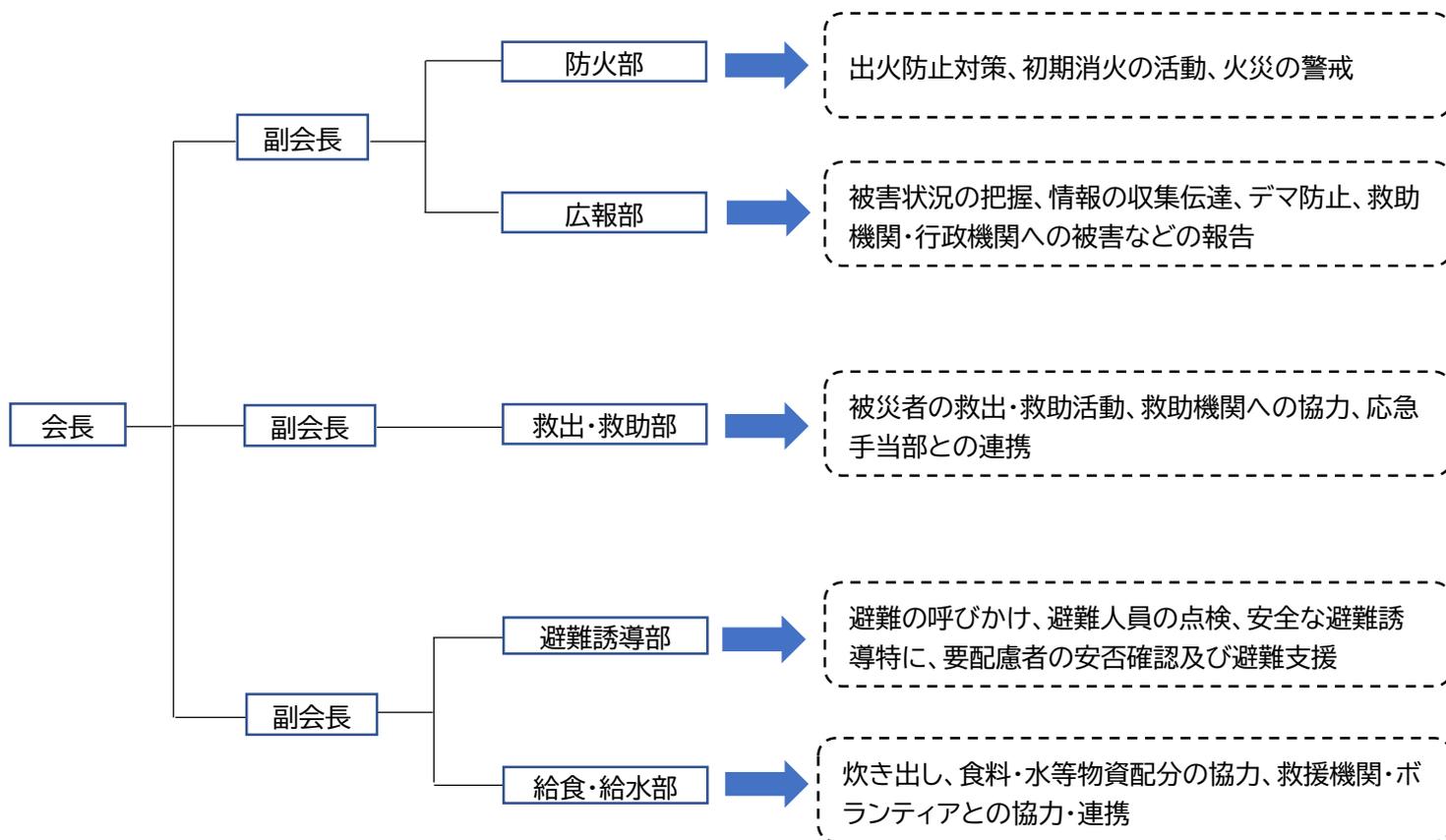
(5) 防災訓練の実施状況

項目	具体的内容	実施時期
防災訓練	避難訓練等 参加者約300人 ※ アルファ化米(五目ごはん)×200食 飲料水(500ml)×216本	平成26年
	避難・救急救護・地震体験訓練・非常食体験 参加者約300人 ※ 防災食パン×240食、メガホン2個	平成27年
	避難訓練等 参加者約400人 ※ 保存缶詰384缶	平成27年
	避難訓練 参加者約380人 ※ 非常食3年保存缶詰384缶	平成28年
	避難誘導訓練・物資配給訓練 参加者約380人 ※ 非常食3年保存缶詰 牛肉すき焼き240缶 拡声器1個・誘導灯6個	平成29年
	避難・救護訓練・地震体験訓練・非常食体験 参加者約340人 ※ 非常食(乾パン324個・担架用ベルト1本)	令和元年
	避難訓練・非常食体験訓練 参加者約300人 ※ 非常食用パン(36個入)・9箱	令和3年
	避難訓練・非常食体験訓練 参加者約300人 ※ 非常食用パン(324個)	令和4年
	避難訓練等 参加者約300人 ※ 非常食(288個)	令和5年

項目	具体的内容	実施時期
防災訓練	避難訓練・非常食体験訓練 参加者約300人 ※ 非常食(324個)	令和6年

(7) 災害時における防災活動

【各部災害発生時の役割】



※ 上記のほか、市民用避難所運営マニュアルに基づき避難所運営を行う。

【初動期】 災害発生直後～3日程度

市職員(避難所運営員)を中心に避難所の開設:初動期は市職員の指示のもとで互いに協力する。

【展開期】 災害3日～1週間程度

- ・地域住民による避難所運営組織の形成:住民がお互いに協力し合い自主的な運営体制を確立する。
- ・市職員や施設管理者は後方支援することにより円滑な避難所運営を図る。

【安定期】 1週間～2週間

運営は、展開期と同じ。市職員及び施設管理者の支援のもとで管理・運営を行う。

【撤収期】 2週間～3か月程度

- ・閉鎖の判断は、避難所運営本部・避難所運営員・施設管理者が協議して決定する。
- ・避難所の閉鎖は、原則全避難者が退所した時点とする。

3 資料編

(1) 避難所・避難場所一覧

区分	所在地(電話)	指定区分	避難先 安全レベル
雑賀崎小学校	西浜1148 TEL 073-444-0048 FAX 073-444-0537	・ 避難所 (津波時開設せず) ・ 避難場所	・ 津波× ・ 洪水3 ・ 土砂3
創価学会南和歌山 文化会館	雑賀崎6-4	・ 避難場所 (敷地内)	・ 津波3
わかうら園	田野175 TEL 073-445-0808	・ 避難場所 (指定敷地内)	・ 津波3
漁火の宿 シーサイド観潮	田野82 TEL 073-444-0111 FAX 073-445-6048	・ 避難場所 (駐車場)	・ 津波3
レモンの丘公園 (旧雑賀崎小学校跡地)	雑賀崎1729	・ 避難場所 (敷地内)	・ 津波3

(2) 自主避難所

施設名	所在地(電話)
わかうら園	田野175 TEL 073-445-0808

(3) 緊急時の連絡先・災害用伝言ダイヤル

□ 緊急時の連絡先

行政機関	和歌山市消防局	073-422-0119	ライフライン	和歌山市企業局	073-435-1124
	和歌山県警察本部	073-423-0110		関西電力(株) 電気設備に関する お問合わせ(停電等)	0800-777-3081
	和歌山市耕地課	073-435-1051		西日本旅客鉄道(株) お客様センター	0570-00-2486
	和歌山市総合防災課	073-435-1199		【電話】会社名:	
公共医療機関				【ガス】会社名:	
			その他		

※【電話】・【ガス】は契約会社に確認して記入してください。

□ 災害用伝言ダイヤル(171)

災害用伝言ダイヤル(171)は、「声の伝言板」(安否情報)の役割をする電話サービスです。被災地内とその他の地域の人々との間で、伝言の録音・再生をすることができます。

「171」をダイヤルし、ガイダンスに従って伝言の録音・再生をしてください。

伝言の録音	1 7 1 + 1 +	被災地の人の電話番号 (市外局番から)	→	録音
伝言の再生	1 7 1 + 2 +	被災地の人の電話番号 (市外局番から)	→	再生

(4) 避難行動の考え方



ひなん
「避難」って
何すれば
いいの?

小中学校や公民館に行くことだけが避難ではありません。
「避難」とは「難」を「避」けること。
下の4つの行動があります。



行政が指定した避難場所 への立退き避難

自ら携行するもの

- ・マスク
- ・消毒液
- ・体温計
- ・スリッパ 等



小・中学校
公民館

安全な親戚・知人宅 への立退き避難

普段から災害時に避難
することを相談して
おきましょう。

※ハザードマップで安全か
どうかを確認しましょう。



親戚・知人宅

**普段から
どう行動するか
決めておき
ましょう**

安全なホテル・旅館 への立退き避難

通常の宿泊料が必要
です。事前に予約・
確認しましょう。

※ハザードマップで安全か
どうかを確認しましょう。



ホテル
旅館

屋内安全確保

ハザードマップで以下の
「3つの条件」を確認し
自宅にいても大丈夫かを
確認することが必要です。

想定最大浸水深

※土砂災害の危険がある
区域では立退き避難が
原則です。



ここなら安全!

「3つの条件」が確認できれば浸水の危険があっても自宅に留まり安全を確保することも可能です

① 家屋倒壊等氾濫想定区域に入っていない
(入っていると…)



流速が速いため、
木造家屋は倒壊する
おそれがあります



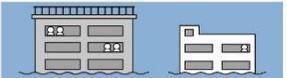
地面が削られ家屋は
建物ごと崩落する
おそれがあります

② 浸水深より居室は高い

3・4階	5m~10m未満 (3階床上浸水~4階軒下浸水)
2階	3m~5m未満 (2階床上~軒下浸水)
1階	0.5m~3m未満 (1階床上~軒下浸水)
1階床下	0.5m未満 (1階床下浸水)

**③ 水がひくまで我慢でき、
水・食糧などの備えが十分**
(十分じゃないと…)

水、食糧、薬等の確保が困難になる
ほか、電気、ガス、水道、トイレ等の
使用ができなくなるおそれがあります



※①家屋倒壊等氾濫想定区域や③水がひくまでの時間(浸水継続時間)はハザードマップに記載がない場合がありますので、お住いの市町村へお問い合わせください。

豪雨時の屋外の移動は車も含め危険です。やむをえず車中泊する場合は、浸水しないよう周囲の状況等を十分に確認して下さい。

出典：「避難情報に関するガイドラインの改定（令和3年5月）」（内閣府）
https://www.bousai.go.jp/oukyu/hinanjouhou/r3_hinanjouhou_guideline/

(5) 災害時の情報入手先

内 容	QRコード等
防災情報電話案内サービス 防災行政無線の放送内容を聞くことができる。	0120-077-199
和歌山市防災情報メール 防災行政無線の放送内容をメールで確認することができる。	
和歌山市ホームページ	
和歌山地方気象台ホームページ	
関西電力停電情報	
和歌山県防災ナビ 避難に役立つ機能を備えている。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 避難先検索 ・ 避難カードの共有 ・ 家族の居場所確認 ・ ルートナビ ・ 避難トレーニング ・ 防災情報通知 	

(8) 災害「備え」チェックリスト

【非常用持ち出し袋】

～ 避難の際に持ち出すもの ～



- いざというときに速やかな避難ができるように、必要最小限のものをリュックサックなどにまとめておきましょう。
- 家族構成を考えて他に必要なものがあれば用意しておきましょう。

飲料水・食料(最低1日分 飲料水/500mlペットボトル2本 食料(調理不要なもの/3食分)

- 飲料水
- 食料 (アルファ化米・乾パン・レトルト食品・飴・チョコ・固形栄養食など)
- ヘルメット
- 衣類・下着
- レインウェア
- 懐中電灯
- マッチ・ろうそく
- 携帯トイレ
- ビニール袋
- 予備電池
- 軍手
- 救急用品(絆創膏等)
- 洗面用具
- 携帯ラジオ
- 携帯充電器
- タオル
- アルミブランケット
- 筆記具
- ホイッスル
- 緊急連絡先カード

《感染症対策にも有効です!!》

- マスク
- 体温計
- 消毒用アルコール
- ウエットティッシュ
- ハンドソープ

【子供がいる家庭の備え】

- ミルク
- 哺乳瓶
- 離乳食
- 子供用紙おむつ
- 携帯用お尻洗浄機
- おしりふき
- 子供の靴
- 抱っこひも
- 携帯カトラリー
- ネックライト
- 衣類

【女性の備え】

- 生理用品
- おりものシート
- サニタリーショーツ
- 中身の見えないごみ袋
- 防犯ブザー
- ポンチョ (携帯トイレ用)

《一緒に持出しましょう!!》

- 現金
- 通帳
- 免許証
- 健康保険証
- パスポート
- マイナンバーカード
- 常備薬
- お薬手帳
- 健康の維持管理上必要なもの

【非常備蓄品】

～自宅に備えておくもの～

- 非常備蓄品として、飲料水・食料、その他生活用品を自宅に備えておきましょう。
- 7日間分を目安に備えましょう。

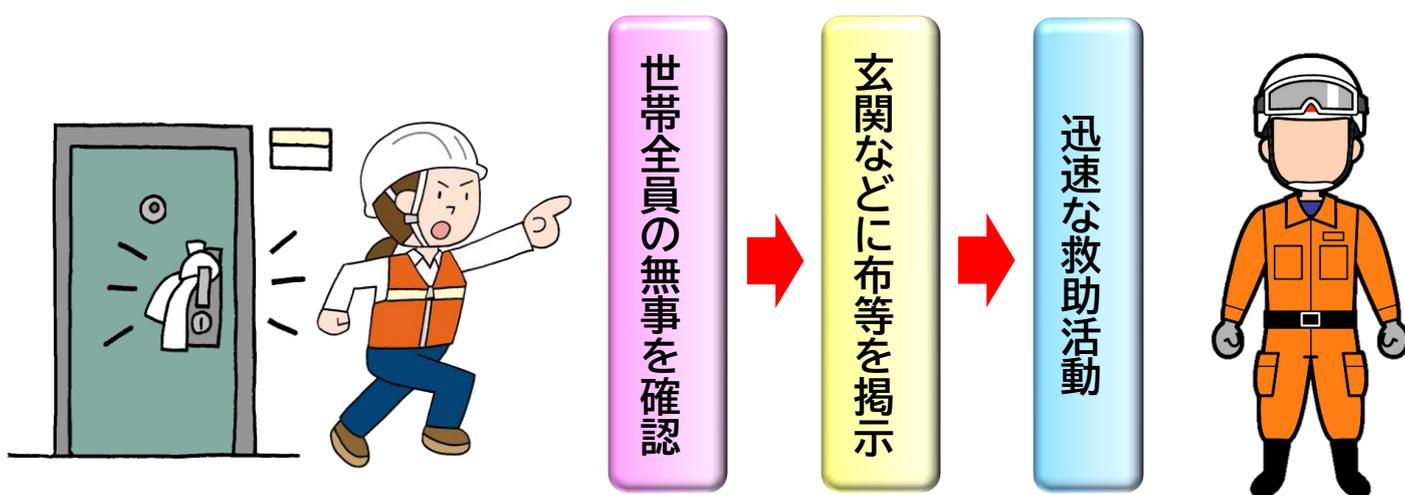
- 飲料水
- 食料 (アルファ化米・乾パン・レトルト食品・飴・チョコ・固形栄養食など)
- 毛布
- ラップ
- 簡易トイレ
- トイレットペーパー
- カセットコンロ
- ウエットティッシュ
- ポリタンク
- ビニール袋(大・中・小) 等



大規模災害発生時の安否確認表示について

【ご説明資料】

安否確認表示とは、世帯全員の無事を確認できたとき、安否確認の布(タオル等)を玄関などの確認しやすい場所へ掲げることにより、救助する者が安否を確認しやすくなることで、地域における迅速な救助活動を促すものです。



自主防災組織(地区防災会)のみなさまへお願い

- ① 表示物の素材・色などを選定してください。
- ② 選定した表示物をどこに掲げるか協議してください。
- ③ 安否確認の表示物掲げる基準を協議してください。
(震度〇強で掲げるなど)
- ④ 定期的な訓練をお願いします。

